

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立北大路中学校 2022 年10月



■ 教育目標

豊かな知性と情操を備え、心身ともに健康で「自主力行」に励む生徒の育成

○ 調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

結果について

《概要》

今回調査のあった国語では、正答率が全国平均・県平均ともに上回りました。記述式の正答率は高い一方、無回答率も高く、二極化傾向があることがわかりました。数学での正答率は、全国平均・県平均ともに同等となりました。基礎・基本的な問題はできますが、応用問題を苦手とする課題があることがわかりました。3年ぶりの実施となった理科では、前回との比較は難しいのですが、全国平均・県平均とほぼ変わらない結果となりました。科学的な探求や実験を計画する力に課題があることがわかりました。

また、生徒質問紙からは、基本的な生活習慣が身についていることや自己肯定感が高い傾向が出ていました。ただ、読書の時間が短かったり、計画的な家庭学習ができていない課題が見つかりました。

《強み・弱み》

①各教科

国語では、基礎知識を問う問題は、正答率が高くなりました。また、無回答率も低く基礎学習が定着している様子がうかがえます。「文章の一部の表現を直す」「心情を並べ替える」など短答式の問題は、答えを導き出す手がかりがあるため、問題に取り組もうという意欲をもっています。選択問題も無回答率が低く、自信がなくても問題に取り組もうとする意欲が見られます。行書の筆順についての理解ができていないため、書写を苦手とする傾向がありました。記述式の正答率が高い一方、無回答率も高く、自信が持てないと最初から諦めて取り組まない傾向が見られました。

数学では、「素因数分解をする問題」や「ヒストグラムを読み取る問題」は、高い正答率でした。解き方がパターン化されていて、繰り返し練習できる基礎・基本の問題はしっかり学習ができていました。しかし、問題文が長く、読み解くことが必要な問題では正答率が低い傾向にありました。

理科では、普段の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている生徒が多く、その結果をもとに考察をしているポイントが全国平均より高い結果となりました。理科の勉強は大切であると感じている生徒が多く、特に、「地球を柱とする領域」での得点が全国平均より高い結果となりました。「エネルギーを柱とする領域」に課題があり、実験や観察における考察を書くことはできていますが、その自然の事物・現象への直接的な取り組みを通して、生徒自ら問題を見だし、科学的に探究することに課題があります。仮説や予想と異なる結果が出る場合、要因を抽出して整理し、条件を制御した実験を計画する力に弱さがあります。

②質問紙

朝食の摂取、朝の起床などから、基本的な生活習慣が身についています。「自分の良いところ」「先生からの認め」「自ら決定したことのやり遂げ」「困っている人への助け」などから、自己肯定感が高く、粘り強くやり遂げようとする態度が身についています。また、自ら進んで手助けをし、人の役に立ちたいと考え、協働を楽しんでいると感じています。

ICTを使うことは学習に役立つと感じているが、授業で触れる機会が少ないとも感じているようです。

15%が家庭学習の取り組み 30 分以下という結果で、計画的な家庭学習に取り組めていない傾向にあります。家庭での読書では、46%が「全く読まない」と回答しています。

指導の充実に向けて

- ・国語では、「書く」問題を苦手とする生徒がいることから、以前から取り組んでいる作文などの指導を継続して行います。
- ・数学では、問題文をしっかりと読み、内容を整理して答えを導き出すための時間を確保していきます。
- ・理科では、実験や観察における見方や考え方をしっかりと伝え、個人がしっかりと時間をかけて答えを導き出す時間を確保します。
- ・グループ活動によって互いの考えを比較・検証する学び合いの場をつくっていきます。
- ・読書を習慣化させるために、「朝の読書」の時間の充実、学校図書館の活用などを更に推進していきます。
- ・各教科からの宿題の内容や提示の仕方を工夫し、更に保護者との連携を図り、家庭学習の定着を習慣化していきます。